

クリーン・ジャパン・ニュースレター



2002年11月発行

No.2

CJC 財団法人 クリーン・ジャパン・センター



■3R功労者等表彰式

3R推進月間事業の一環として、10月23日イイノホールにおいて3R功労者等表彰式が挙行されました（詳細は本紙2頁）。



■石炭灰の造粒化実証プラント全景

平成13年度国庫補助事業として採択された石炭灰の有効利用を図る実証プラントです（詳細は本紙5頁）。

目 次

● 平成15年度廃棄物関連概算要求等について	2
● 3R月間事業報告	2
・ 3R月間事業紹介	2
・ 3R功労者等表彰について	2
・ 平成14年度リサイクルセミナー in 仙台	3
● 再生材に関するインターネット展示場のご案内	3
● 平成14年度廃棄物等用途開発・拡大のための調査検討事業	4
● 平成14年度CJC事業紹介	4
● 石炭灰の造粒化実証プラント（平成13年度国庫補助事業）	5
● 行政・政策動向	6
・ 審議会情報	6
・ 法令関連情報	7
・ 3R関連法実施状況	7
● 国際動向	7
● お知らせ	8
・ 環境リサイクル講師および「3R体験学習」事業所の募集	8
・ 第10回資源循環技術研究発表会開催	8
・ CJCホームページリニューアル	8
・ ウエステック2002開催	8
・ エコプロダクツ2002開催	8

平成15年度廃棄物関連概算要求等について

■経済産業省

平成15年度リサイクル推進関連予算要求額は15,113百万円であり、新規事業としては、環境配慮経営等支援事業(200百万円)、資源の有効利用促進に係る技術開発等の出資、利子補給(510百万円)等があるほか、循環ビジネス人材教育・循環ビジネスアドバイザー派遣事業、モデル

循環システム事業、循環ネットワーク整備事業、省資源・再資源化に関する指針策定等、3R技術開発支援について大幅な増額要求をしています。
(http://www.meti.go.jp/policy/closed_loop/index.html)

■環境省

平成15年度環境省重点施策の筆頭に、脱温暖化・循環型の持続可能な社会の迅速な構築を掲げ、214,500百万円を要求しています。新規事業としては、廃棄物処理施設に対する温暖化対策補助事業費(1,060百万円)、産業廃棄物不法投棄地再生事業(2,600百万円)、不法投棄事案対応

支援事業(48百万円)、廃棄物処理過程追跡システム等実証調査(41百万円)、埋立処分地再生事業(1,000百万円)、最終処分場跡地実態調査費(20百万円)等を要求しています。
(<http://www.env.go.jp/guide/budget/index.html>)

■農林水産省

バイオマス・ニッポン総合戦略の強力な推進として、29,017百万円を要求しています。新たなモデル施設の整備に係る新規要求を含め前年度予算に比べ倍以上の要求となっています。また、地域材及び木質バイオマスの利

活用の推進として3,358百万円(前年度予算:1,556百万円)を要求しています。
(http://www.maff.go.jp/soshiki/kambou/kessan/h15/yokyu_gaisan/)

■国土交通省

リサイクル等による循環型社会の構築として、リサイクルシステムの確立による環境負荷低減(国費327億円)、静脈物流システムの構築(国費161億円)を要求してい

ます。
(http://www.mlit.go.jp/yosan/yosan03/gaisan03/03_3.html)

3R月間事業報告

3R月間事業紹介

- ◇リサイクル関係8府省は、平成3年から毎月10月を「リサイクル推進月間」とし、広範な普及啓発活動を実施しました。
循環型経済システムを構築するためには、従来のリサイクルに加え、リデュース、リユースの推進が重要であるため、本年度より名称を「リサイクル推進月間」から「リデュース・リユース・リサイクル推進月間(略称:3R推進月間)」に改めました(関係8府省:内閣府、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省)。
- ◇経済産業省と関係機関が実施した「3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進月間」の主な行事は表の通りです。
- ◇この他にも、44都道府県、403市町村で、様々な行事が行われました。

行事等の名称	主催者名	開催日時	会場
リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式	リデュース・リユース・リサイクル推進協議会	10月23日(水) 14:00~16:30	イノホール (千代田区内幸町)
10月は3R(リデュース・リユース・リサイクル)推進月間3R関連展示	経済産業省	10月1日(火) ~31日(木)	経済産業省 (本館ロビー)
リサイクルセミナー2002北海道	北海道経済産業省	10月25日(金) 13:30~17:00	札幌全日空ホテル (北海道札幌市)
平成14年度リサイクルセミナーin仙台	東北経済産業局(財)グリーン・ジャパン・センター	10月31日(木) 13:15~17:10	マークスGホテル 仙台(宮城県仙台市)
紙リサイクルセミナー	(財)古紙再生促進センター	10月24日(木) 13:00~16:55	東商ホール (千代田区丸の内)

3R功労者等表彰について

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会主催による平成14年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式が10月23日(水)、東京・千代田区のイノホールで開催されました。
今年度は下記の内閣総理大臣賞2件、各府省大臣賞16件

- の他、協議会会長賞216件、計234件が表彰されました。
- ◆平成14年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰大臣賞受賞者
- 内閣総理大臣賞
 - ・神岡鉱業株式会社

- ・松下電工株式会社全社3Rグループ
- 経済産業大臣賞**
 - ・石井十世
 - ・大阪ガス株式会社設備技術部
 - ・株式会社ダイエー総務室
 - ・東京化工品株式会社本社工場
- 国土交通大臣賞**
 - ・伊予三島市産業経済部農林水産課
 - ・熊谷組・鴻池組建設共同企業体
 - ・立命館宇治作業所
 - ・五洋建設・三井建設・鴻治組共同企業体（四川ダム工事事務所）
 - ・日本道路公団東北支社山形工事事務所

- ・株式会社ノダ繊維板事業部
- 農林水産大臣賞**
 - ・サントリー株式会社高砂工場
- 環境大臣賞**
 - ・神山桂一
- 文部科学大臣賞**
 - ・富士見丘中学・高等学校
 - ・福光町立福光中部小学校PTA
- 経済財政政策担当大臣賞**
 - ・魚津市連合婦人会
 - ・群馬県環境アドバイザー連絡協議会
 - ・リサイクルグループ「かもめ」

平成14年度リサイクルセミナー in 仙台

本年10月の「3R（リデュース・リユース・リサイクル）推進月間」における環境・リサイクル問題に関する普及啓発事業の一環として、東北経済産業局及び当センターの主催により10月31日、「平成14年度リサイクルセミナー in 仙台」が開催されました。

当日は、経済産業省環境政策課の福島課長補佐による「最新の環境関連施策の動向について」紹介があった後、早稲田大学・中村教授より「持続可能性と3R：日本の戦略」と題した講演がありました。さらに、「使用済み自動

車にリサイクルの取り組みについて」（社）日本自動車工業会 益田リサイクル・廃棄物部会長）及び「R-economyニューオータニ循環型リサイクルシステムの計画と実践」（株）ホテルニューオータニ 和田ファシリティマネージメント部長）と題した最近のトピックスが報告されました。定員200名に対し、宮城県のみならず東北各県から約240名の参加があり、本セミナーへの関心の高さが伺えました。

再生材に関するインターネット展示場のご案内

再生材の流通を促進する目的でインターネット上に再生材料や再生材を使用した商品の事例並びにそれらを製造するための技術等を展示するシステムを経済産業省の委託で平成12年度に構築しました。CJC環境リサイクル情報センターでは、経済産業省よりそのシステムの使用許可を得て、事業者各位の開発した商品、技術をインターネット上で紹介することにより、それらの普及に努めています。

現在（平成14年度）、無料で展示登録を受け付けています。ご利用下さい。登録は、企業、団体に限らせて戴いています（詳細 → http://search.cjc.or.jp/show_inv.html/）。

◆展示分野

- ・再生資材展示場（再生材料、再生材利用製品）
- ・循環技術展示場（再生資源化技術、再生材の利用技術）

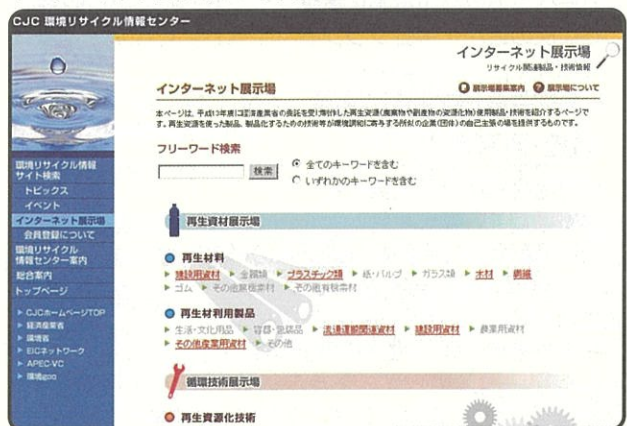
◆登録方法

- ・企業登録：新規登録入力票の必要事項を入力して、登録ボタンをクリックするとE-mailで事務局に送信されます（<http://search.cjc.or.jp/>）。
- ・登録を済ませた企業にはIDとPWをご連絡致します。ID、PWの連絡を受けた企業は、登録テーマに対応した入力票を選択し自ら登録原稿を作成します（写真は2枚まで添付できます）。
- ・原稿作成が終了したら、CJCが内容確認後一般公開と致します。修正はID、PWを使って随時可能です。
- ・複数件の商品、技術の展示が可能です。

※今年度は登録原稿作成の支援も行います（先着200件）。お気軽にお申し出下さい。

※本件に関するお問い合わせは「インターネット展示場案内（E-mail：annai@cjc.or.jp）宛にお願い致します。

インターネット展示場トップ画面



登録製品・技術の紹介画面





平成14年度廃棄物等用途開発・拡大のための調査検討事業

平成14年7月10日、標記事業の平成14年度テーマ選考のためC J Cにおいて委員会が開催されました。選定された6テーマの名称、委託先、廃棄物とリサイクル製品およびその概要を下表に示します。

テーマ名称	委託先	廃棄物とリサイクル製品	概要
冷蔵庫使用済みコンプレッサーのリサイクル技術開発プロジェクト	松下冷機株式会社	使用済みコンプレッサー → 再生コンプレッサー	冷蔵庫廃コンプレッサーを手分解分別し、ボルト類、アルミ材料、鋳物・鉄材料、銅線および樹脂を回収する。得られた部品およびアルミ、鉄、銅を利用してコンプレッサーを再生する。
廃木材の再資源化商品開発	アマタ株式会社	建設発生木材→エンジニアリングウッド → 再生家具等	建設廃木材をチップ化し、蒸気プレスにより凝集させ任意の資材に加工して用いる。
繊維廃棄物利用ボードの高機能化	京都工芸繊維大学	ぼろ・屑繊維 → PP,PE等バインダー繊維混合 → 解繊、混織 → ホットプレス → 建材	廃布団綿やぼろを単独または組み合わせて、廃セルロース系繊維、廃化学繊維等の配合割合を調整し、断熱建材、建築用型枠および梱包材の開発を図る。
水熱反応を利用した石炭灰からの高強度固化品の製造	株式会社神戸製鋼所	石炭灰 → 石灰またはセメント混合 → オートクレーブ(水熱反応処理) → 細骨材、ブロック品	石炭灰に10%程度の固化材(石灰、セメント)と30%程度の水を添加し、加圧下100~300℃処理し、高強度の細骨材あるいはブロック品を製造する。
廃白土の再生加熱アスファルト混合物への適用技術	福田道路株式会社	廃白土 → 再生加熱アスファルト	アスファルトの再生時に添加される鉱物油の代替として廃白土を用い再生アスファルトのコストダウンを図る。
無溶解アルミ缶再生資源化プロジェクト	株式会社ハイネット	アルミ缶 → 防音板	アルミ缶をチップ状に破碎した後、研磨し表面塗料を除去し、鱗状アルミ片を得る。これを高圧固化し、防音板とする。

平成14年度C J C事業紹介

当センターの平成14年度事業を紹介します。

■再資源化技術開発事業省

- カーペット廃材再資源化実証プラント(平成12年度採択)
- 石炭灰の造粒化実証プラント(平成13年度採択:本紙にて紹介)
- 廃棄物等用途開発・拡大事業(本紙にて紹介)

- 熱硬化性樹脂などの液相分解法によるモノマー・化学原料へのケミカルリサイクル技術の開発(NEDO事業:前号にて紹介)

■調査・研究事業

- 資源総合利用計画調査研究
 - ・兵庫県でのバイオマスエネルギー利用に関する調査研究
- 使用済み製品の自主回収システムの構築支援
 - ・建築用断熱材(押出法ポリスチレンフォーム板)の自主回収システムの構築
- 産業廃棄物・有価発生物の実態調査
 - ・製造業、電気業、ガス業及び鉱業から発生する産業廃棄物・有価発生物の現状調査と最終処分状況の把握
- 副産物・再生品電子取引市場環境整備調査
 - ・副産物や再生品の流通、取引の実情調査及び電子取引

- 市場構築のモデル調査、検討
- 環境・リサイクル配慮型製品の市場拡大に係る生産者の課題
 - ・原材料のグリーン調達等、生産者としての環境配慮活動に関する調査研究
- 特定家庭用機器再商品化地域モデル事業
 - ・使用済み家電4品目のリサイクル等の推進に関する全国自治体の取組み事例の調査

■情報提供及び啓発・普及事業(詳細は前号参照)

- 環境リサイクル情報センター事業
- 各種情報サービス支援(本紙刊行、ホームページ運営等)
- 表彰事業(資源循環技術・システム表彰、リサイクル技

- 術開発本多賞)
- 資源循環技術研究発表会の開催
- セミナーの開催

- リサイクル教育支援事業
- ポスター、パネル、パンフレットの作成
- 展示会等への出展
- 講師派遣等

- 3R推進協議会事務局の運営
- 溶融技術研究会事務局の運営
- RDF/Mフォーラム事務局の運営
- エコ・テクノロジー研究会事務局の運営

国際交流

- 海外情報の収集
 - ・ドイツ、EUにおけるリターナブル容器、プラスチック製容器包装、電気電子機器のリサイクルの現状に関する調査

- 英文パンフレットの作成・頒布
- EUビジネスマン研修生の受入
- JICA研修生の受入

石炭灰の造粒化実証プラント（平成13年度国庫補助事業）

実証プラントの意義

石炭使用量は、年々着実に増加しており、それに伴って石炭灰発生量も平成12年度の843万tonから平成16年度には1,050万tonまで増加するものと予想されております。石炭灰の有効利用の現状は、石炭灰発生量のうち約82%が利用されており、その約70%がセメント分野であります。セメント分野での更なる利用拡大も図られておりますがこの分野での利用量に限界があり、今後の石炭灰発生量の急激な増大に対応するためには大量利用が可能な土木分野での利用拡大が強く望まれております。

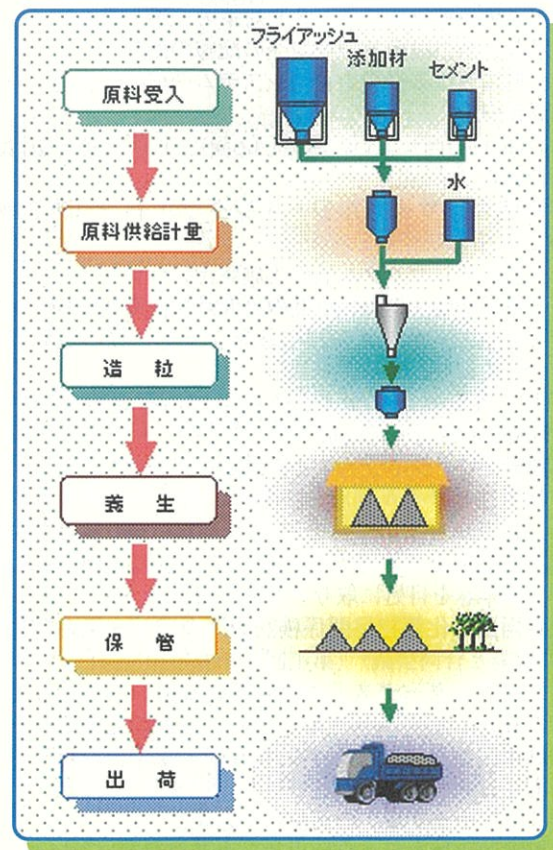
本実証プラントは、屋外で貯蔵可能であること、まさ土（広く土木材料として利用されている花崗岩起源の風化土）と同様の使用が可能であること、製品の取り扱いが容易で粉塵の飛散がないこと、さらに原材料が安価で製造プロセスが簡単のため製造コストが低廉であること等の特徴を有する石炭灰造粒砂を製造するプラントです。

本プラントにより生産及び利用の両面から実用性を実証し、これが広く普及されることにより、わが国の石炭灰再資源化の促進に大きく寄与することが期待されています。

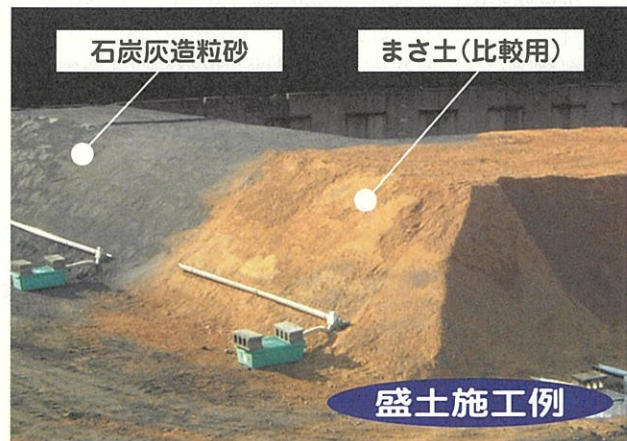
実証プラントの概要

- ・名称：石炭灰の造粒化実証プラント
- ・所在地：山口県宇部市大字小串字沖の山1980番地の27 宇部興産株式会社沖の山コールセンター内
- ・完工：平成14年3月（同年4月より実証実験開始）
- ・石炭灰処理能力：6.25t/h(5.0万t/年)
- ・製品生産能力：9.56t/h(7.6万t/年)

石炭灰造粒砂製造工程



石炭灰造粒砂



行政・政策動向

審議会情報

産業構造審議会

【審議状況】 (<http://meti.go.jp/report/committee/index.html>)

《廃棄物・リサイクル小委員会》

○廃棄物・リサイクル小委員会（第4回）2002年10月3日
検討課題について

資源有効利用促進法の施行状況や製品毎のリサイクル等の取組状況を整理し、同法の特定業種・指定製品への追加業種・指定製品の見直しと同法強化の必要性、産構審リサイクルガイドラインの取組の強化等に関する以下の個別課題について検討します。

- ・拡大生産者責任による3R対策の一層の推進
- ・設計、製造段階での環境への配慮の徹底
- ・地域における循環型経済システムの構築の推進

スケジュール

10月29日（第5回）、11月中旬（第6回）、12月上旬／報告書取りまとめ（第7回）

○容器包装リサイクルワーキンググループ（第3回）
2002年10月3日

- ・容器包装リサイクル法の実施状況について
- ・平成15年度～平成19年度の再商品化計画について
- ・容器包装リサイクル法の義務量算定に係る数値等について
- ・（財）容器包装リサイクル協会の情報開示について (<http://www.jppra.or.jp/>)

○自動車リサイクルワーキンググループ

自動車リサイクル制度の詳細を検討するために本ワーキンググループの下に2組織を設置して中環審の設置した2組織とそれぞれ合同検討会を毎月1回程度開催し、来年春を目処に取りまとめを行います。

①特定再資源化等物品関係検討タスクフォース合同会議（中環審と合同会議）（第1回）2002年10月22日

- ・シュレッダーダストの再資源化基準の具体的な水準の設定、エアバック類の扱い、再資源化等を行う自動車製造業者の範囲や引取基準・指定引取場所等のあり方等
- ・「エアバック類」の具体的な定義について
- ・再資源化等を行う自動車製造業者の範囲について

②許可基準等検討小委員会合同会議（第1回）2002年10月28日

- ・解体業に係る基準等（許可基準、再資源化基準等）
- ・破碎業に係る基準等（許可基準、再資源化基準、破碎前処理基準等）
- ・その他解体業、破碎業に関する事

○電気・電子機器リサイクルワーキンググループ家電等リ

サイクル専門委員会合同会議（第1回）2002年10月25日
中環審の設置した家電等リサイクル専門委員会との合同会議を開催し以下の事項が報告、審議されました。

- ・家電リサイクル法の施行状況について
- ・家電リサイクル法におけるフロン対策の強化について（冷媒フロンに加え家庭用冷蔵庫の断熱材フロンについても同様に扱うべきこと）

《地球環境小委員会》

○地球環境小委員会（第11回）2002年10月11日

- ・地球環境問題に関する国際交渉の動きと今後の検討について
- ・気候変動枠組条約・京都議定書に関するこれまでの交渉経緯について

《産業と環境小委員会》

○産業と環境小委員会（第1回）2002年10月31日

環境と経済を両立させ、持続可能な経済社会を構築することが喫緊の課題となっていることを踏まえ、以下の課題の検討を進めるために本小委員会が新設されました。

- ・環境経営の促進のあり方
- ・環境ビジネスの振興のあり方
- ・地域における環境産業振興のあり方
- ・企業、市民、行政の連携による環境改善活動のあり方
- ・国による環境経営、ビジネス支援のあり方

今後のスケジュール

- ・2002年11月26日：第2回
- ・2002年12月20日：第3回
- ・2003年1月中旬：第4回／中間報告（案）

【報告書】

○家庭系使用済みパソコンの回収・再資源化推進方策

- ・廃棄物リサイクル小委員会パソコン3RWG・環境省パソコンリサイクル検討会合同（2002年5月） (<http://www.meti.go.jp/report/downloadfiles/g20530aj.pdf>)

○循環型社会の高度化に向けて

- ・廃棄物リサイクル小委員会企画WG（2002年2月）

【資料】

- ・資源循環指標策定ガイドライン（リサイクル推進課） (http://www.meti.go.jp/policy/closed_loop/junkan_index/houkokusho_mokuji.htm)
- ・平成14年度容器包装利用・製造等実態調査の実施について（リサイクル推進課） (http://www.meti.go.jp/policy/closed_loop/yori-chosa/14fy/14fyResearch_toppage.html)

中央環境審議会

中央環境審議会では、廃棄物・リサイクル部会において、規制改革に関する指摘や廃棄物・リサイクル制度に関する国際的動向等を踏まえつつ、廃棄物の処理責任の徹底、適正処理の確保、排出抑制と円滑なリサイクルの推進の観点から、廃棄物・リサイクル制度の基本問題に

についての検討を行っています。今年7月に設置された同部会廃棄物リサイクル制度専門委員会は10月25日に「廃棄物・リサイクル制度の基本問題に関する制度面の見直し等について（報告）」を公表し、11月1日に部会に報告しました。

上記報告では、(1)合理的な制度の確立による効率的な廃棄物処理・リサイクルの推進、(2)不適正処理の防止・適正処理の確保、(3)適切な役割分担による廃棄物の排出抑制等の課題を解決するため、業及び施設の特例制度の拡充、物の性状に応じた施設許可制度の合理化、地方公

共団体の行政調査権限の強化等を提案しています。

今後、廃棄物・リサイクル部会では、審議を進め、年内に最終取りまとめを行う予定です。

(<http://www.env.go.jp/press.php3?serial=3690>)

法令関連情報

フロン回収破壊法

平成13年6月に制定されたフロン回収破壊法が本年10月1日完全施行されました。既に本年4月1日から業務用のエアコンディショナー、冷蔵機器・冷凍機器を廃棄する際にフロン類を回収、破壊することが義務付けられていましたが、この度、乗用車・バス等のカーエアコンに含まれるフロン類についても廃棄の際に回収、破壊することが義務付けられました。自動車ユーザーは、使用済自動車を廃棄するまでの間に郵便局またはコンビニエンスストアで処理費用を払い込んで自動車フロン券を受取

り、使用済自動車を引き取り事業者へ渡す際に一緒に渡す必要があります。ちなみに料金は乗用車の場合、2,580円。なお、この乗用車・バス等のカーエアコンに含まれるフロン類に関するこの制度は自動車リサイクル法が完全施行されれば同法の中で扱われることとなります。また、家庭用のエアコンディショナー、冷蔵庫については家電リサイクル法によりフロン類は回収、破壊されています。

3R関連法実施状況

資源有効利用促進法

資源有効利用促進法の特定省資源業種に基づく副産物の発生抑制等に関する計画書策定の手引き（経済産業省）（化学工業編、自動車製造業編、紙・パルプ製造業編、銅

第1次製錬・精製業編、製鉄業及び製鋼圧延業編）が掲載されています。

(http://www.meti.go.jp/policy/closed_loop/index.html)

容器包装リサイクル法

○平成15-19年度分別収集見込み量発表（9/5環境省 http://www.env.go.jp/recycle/yoki/mikomi_h15/index.html）

○平成15-19年度再商品化計画（経済産業省 <http://www.meti.go.jp/kohosys/committee/summary/0001074/0001.html>）

第3期再商品化計画（3年毎の見直し）が産業構造審議会

容器包装リサイクルワーキンググループで審議されました。

○容器包装利用・製造等実態調査（経済産業省 <http://www.meti.go.jp/kohosys/committee/summary/0001074/0001.html>）

食料品製造業等の中味事業者と容器包装メーカーの負担割合案分のための基礎調査の結果。

家電リサイクル法

○施行状況（10/11環境省）

平成14年4-9月、家電4品目の引き取り量571万台（概ね

順調）

(<http://www.env.go.jp/press/press.php3?serial=3652>)

その他関連法の実施状況

○産業廃棄物広域再生利用指定（10/18環境省）

制度、指定状況（広域再生利用産業廃棄物処理者）、違反行為を行った場合の取扱、指定取消等の情報が掲載さ

れています。

(<http://www.env.go.jp/recycle/waste/saisei/index.html>)

報告書等

○資源循環指標策定ガイドライン

リサイクル率等の指標の定義、算出法の現状を調査し類型化・共通化を目指しています。

(http://www.meti.go.jp/policy/closed_loop/junkan_index/houkoku_sho_mokuji.htm)

○廃棄物処理技術情報一覧（環境省10/31）

一般廃棄物処理実態調査のダウンロード他報告書の検索が可能なページ開設されました。

(http://www.env.go.jp/recycle/waste_tech/index.html)

国際動向

持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD）の開催

本年8月26日から9月4日までの間、南アフリカ共和国のヨハネスブルグに於いて2万人を超える関係者が参加して

「持続可能な開発に関する世界首脳会議（WSSD: World Summit on Sustainable Development）」が開催されました。



これは、1992年の国連環境開発会議（リオサミット）から10年目にあたる本年、持続可能な開発をテーマに、環境問題、貧困の撲滅、グローバル化の進展など広範な課題に対応すべく開催されたもので、「政治宣言」

（「持続可能な開発に関するヨハネスブルグ宣言」）並びに持続可能な開発に関する今後の包括的な指針を記述する「実施計画」が採択され閉会しました（<http://www.johannesburgsummit.org>）。

お知らせ

環境リサイクル講師および「3R体験学習」事業所の募集（12月上旬予定）

CJCでは、経済産業省の委託をうけ、事業活動の現場などに従事しリサイクルに詳しい「環境リサイクル講師」がボランティアとして学校で講師を務めたり、児童・生徒が実際に商品の生産やリサイクル工場などの「3R体験学習」事業所の見学を通して学んだりする仕組みを設け、環境・リサイクルに関する理解を深めていた

： だくお手伝いをしていきます。就いては、今年度の「環境リサイクル講師」および「3R体験学習」事業所の募集を行います（12月上旬予定）。

※詳細は <http://www.cjc.or.jp/support/> をご参照下さい。（担当：吉田、網野、田辺）

第10回資源循環技術研究発表会開催

循環型社会形成に大きく寄与する資源循環技術の最新の研究・開発状況に関する情報・意見交換の場として、平成14年度「第10回資源循環技術研究発表会」を開催します。

- ・日時：平成14年12月4日（水）10:00～16:55
平成14年12月5日（木）10:00～16:50

- ・場所：発明会館ホール
（東京都港区虎ノ門2-19-14, T:03-3502-5499）
- ・参加費（2日間通し）：一般¥5,000、会員¥3,000
- ・参加申込締切：平成14年11月22日（金）
- ※詳細は <http://www.cjc.or.jp/> をご参照下さい。（担当：竹下）

CJCホームページリニューアル

- ・CJCホームページをリニューアルしました。
- ・12月1日から、新たなホームページで環境関連情報を提供致します。

※ホームページ上で本紙もご覧頂けます（バックナンバー有り）。（担当：中村）

ウエステック2002開催

- ・地球再生— 思いを込めて
- ・環境を支える最新の技術や活動が一堂に展示されます。

- ・日時：11/26（火）～29（金） 10:00-17:00
- ・会場：日本コンペティションセンター（幕張メッセ）
（<http://www.wastec.gr.jp/>）

エコプロダクツ2002開催

- ・あらゆる環境配慮製品（エコプロダクツ）と、エコライフのための各種サービス、企業の環境姿勢などが一堂に展示されます。

- ・日時：12/5（木）～7（土） 10:00-17:00
- ・会場：東京ビッグサイト
（<http://www.nikkei.co.jp/events/eco/>）

クリーン・ジャパン・ニュースレター No.2

- 発行 財団法人クリーン・ジャパン・センター
- 2002年11月

〒105-0001
東京都港区虎ノ門三丁目6番2号第2秋山ビル
Tel : 03-3432-6301 Fax : 03-3432-6319
<http://www.cjc.or.jp/> (禁無断転載)

本誌は古紙配合率100%、白色度70%の再生紙を使用しています。